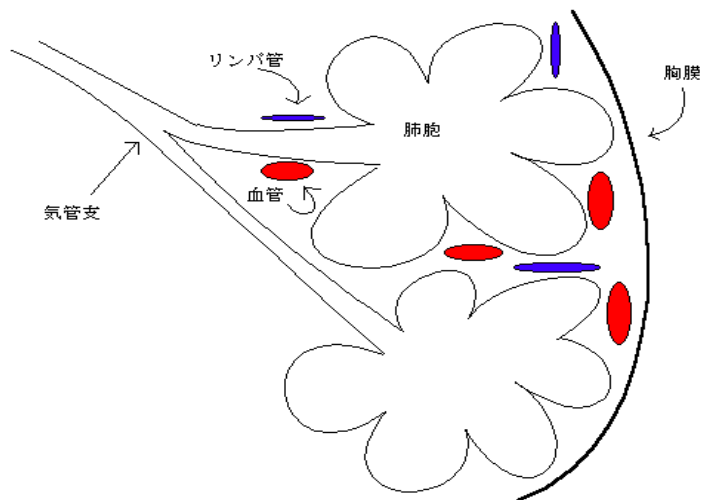


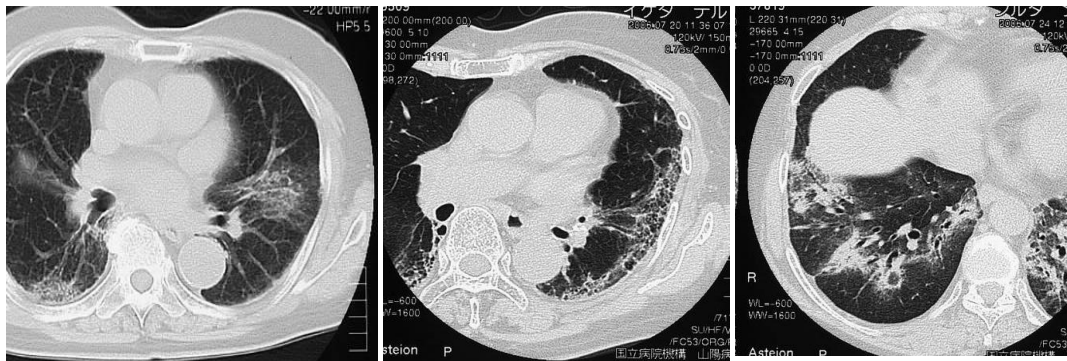
間質性肺炎について



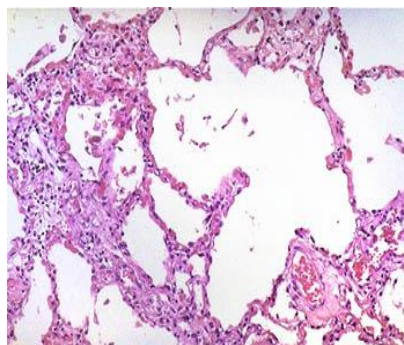
空気に接している肺胞腔内を肺の実質といい、それ以外のところを間質と言います。間質性肺炎はこの間質が何らかの原因で炎症を起こすことで発症します。肺胞は、酸素を取り入れ、二酸化炭素を排出するガス交換の場ですので間質性肺炎ではガス交換障害が起こり、生命維持に必要な体の酸素化能が低下します。

《診断》

間質性肺炎の胸部単純 X 線写真では、斑状の浸潤影、すりガラス、網状影など様々な要素が混在し、これだけでは正確な診断は困難です。画像診断には、高分解能 CT (HRCT) が大変有用です。



間質性肺炎の病理像では、肺胞腔には炎症細胞がなく、肺の間質に炎症細胞があります。



間質性肺炎の症状は、痰の出ない乾いた咳、体を動かした時の息切れ、軽度な風邪症状のみで発症することがあります。

間質性肺炎には多くの種類のものがあります。サルコイドーシス、過敏性肺炎、職業性（石綿肺など）、薬剤性（抗がん剤など）、膠原病によるもの（リウマチ肺など）、血管炎によるもの、好酸球性肺炎、細気管支炎、リンパ脈管筋腫症などがありますが、原因不明のものを「特発性間質性肺炎」と言います。特発性間質性肺炎は大きく7つに分類され、予後や治療効果がある程度予想できます。

いずれにせよ、間質性肺炎の診断は難しく、また治療も難治性のものが多いので専門的医療が必要です。